

I はじめに

黒塚古墳は、天理市柳本町に所在する全長約130m、後円部径約72m、後円部高さ約11m、前方部高さ約6mの前方部を西側に向ける前方後円墳です。1961年に行われた発掘調査(第1次調査)によって、墳丘が中世から近世にかけての城郭に利用されていることがわかりました。1989年に行われた発掘調査(第2次調査)によって、南側裾で盛り土の下に包含層のあることなどが確認されています。今回の調査は、主体部の究明と墳丘構築の把握を目的として、1997年8月11日より開始しました。

II 調査の概要

1. 墳丘の調査

後円部の北側斜面トレンチでは、中世以降に城郭に利用されたための改変が著しいため、本来の墳丘面は確認できませんでした。しかし、標高77m近くで古墳築造以前の旧表土を確認し、墳頂までの約11mの高さは全て盛り土であることがわかりました。裾近くに葺石起源の転落石や埴輪が確認できなかったことから、もともと葺石・埴輪はなかった可能性が高くなりました。

2. 埋葬主体部

後円部墳頂も城郭によって大きな改変を受けていましたが、後円部中央において墳丘主軸に直交する南北方向の竪穴式石室を検出することができました。

盗掘坑 竪穴式石室の北側4分の3に重複するように、大規模な盗掘坑がありました。埋土中に含まれる瓦器・土師皿等から、盗掘の時期は鎌倉時代頃のことのようです。盗掘坑内からは丹塗りの底部穿孔壺形土器も出土しています。盗掘時期が城郭によって改変される以前であったため、墳頂に置かれていた土器が混在したと理解しています。

竪穴式石室 平面形が南北長17m以上・東西推定長15m以上の隅丸長方形の墓壙(石室を作るくぼみ)の中央に、墳丘長軸に直交した南北方向の竪穴式石室を検出しました。規模は内法の長さが約8.3m、北小口幅約1.3m、南小口幅約0.9m、高さは約1.7mあります。石室壁面の下方約0.4mは人頭大の河原石を用いており、その上位から板石を強く持ち送って積み上げています。明瞭な天井石はなく、板石を重ねてふさぐ、いわゆる合掌式の石室です。板石の裏込めには人頭大以上の大きさの河原石を用いており、天井相当部分を中心に上面は粘土で被覆しています。石室壁面の下位にはベンガラが塗布されていました。河原石の採取地は近在の竜王

山麓あるいは巻向川流域ですが、板石は約18km離れた二上山南麓の春日山および芝山(大阪府柏原市)から運ばれたものです。

石室には、木棺をのせる台になっていた粘土棺床があります。木棺は消滅していましたが、粘土棺床の規模、形状から長さ約6.2m、直径1mを超える割竹形木棺であったことがわかります。

3. 主体部の遺物

石室の壁体は早い段階から崩壊が進んでいたようです。床面付近には崩落した板石が水平に積み重なる部分や、壁を積み重ねた様子を留めたまま倒壊した郭分があり、床面の上は板石によって覆われた状態でした。盗掘者は床面を覆う大量の崩落石に阻まれ、空洞状況をとどめていた南小口部分にだけ侵入できたようです。その結果、石室南小口を除く場所には完全な形で副葬品が残されていました。

石室内から出土した遺物は、木棺内に納められていた棺内遺物と、木棺と石室壁面との間にある隙間に納められた棺外遺物に大別できます。

棺内遺物 棺北小口から南へ約2.5mの位置に、画文帯神獸鏡1面が鏡背(文様のある面)を南に向けて立った状態で出土し、その両脇には鉄製刀剣類が並行して置かれていました。画文帯神獸鏡の位置から南に約2.8mの間は水銀朱が濃く、北に頭を向けた人体埋葬位置が復元できます。

棺外遺物 32面の三角縁神獸鏡が石室の北半に集中して出土しました。その内訳は木棺の西側に16面、東側に15面、北小口側に1面です。いずれも鏡面(文様のない面)を木棺側に向けており、重複したり縦列に並ぶ部分もあります。一部の鏡には鏡背が上を向くものもありますが、木棺が腐朽したり上位にあった鉄製品のために横転したようです。鏡に重複するように刀剣類や鉄鏃などの鉄製品が並べられています。盗掘を受けていないにもかかわらず、木棺の南半部の両側には遺物が少なく、副葬品が北側に偏っていることがわかります。盗掘を受けた石室の南小口付近からは、甲冑類の小札や工具類、土師器が出土しており、攪乱されているとはいえ、どのような品物が置かれていたかは知ることができません。

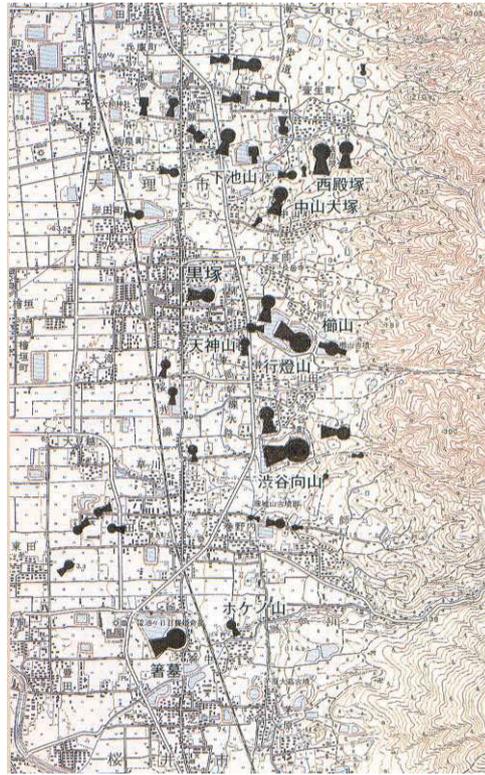


Ⅲ. まとめ

大和古墳群の古墳を規模で大別すると、黒塚古墳は第2のグループに入る全長130mの前方後円墳です。埋葬施設は大規模な墓壙内に作られた特徴のある構造の竪穴式石室であり、石室の内法の長さは約8.3mと最大級の規模をもっています。

石室床面は南小口付近の一部を除いて未盗掘であり、遺物の大半が原位置のまま残っていました。鏡をはじめ、鉄製品などの種類や数量が豊富で、副葬品の配置の仕方、取り扱いの違いがよくわかります。まるでタイムカプセルのようです。

黒塚古墳の年代については、遺物を取りあげていないため、まだ結論は得ていませんが、古墳時代前期前半の古墳であり、これまで調査してきた中では中山大塚古墳よりは新しく、下池山古墳よりは古いと考えています。



大和古墳群分布図

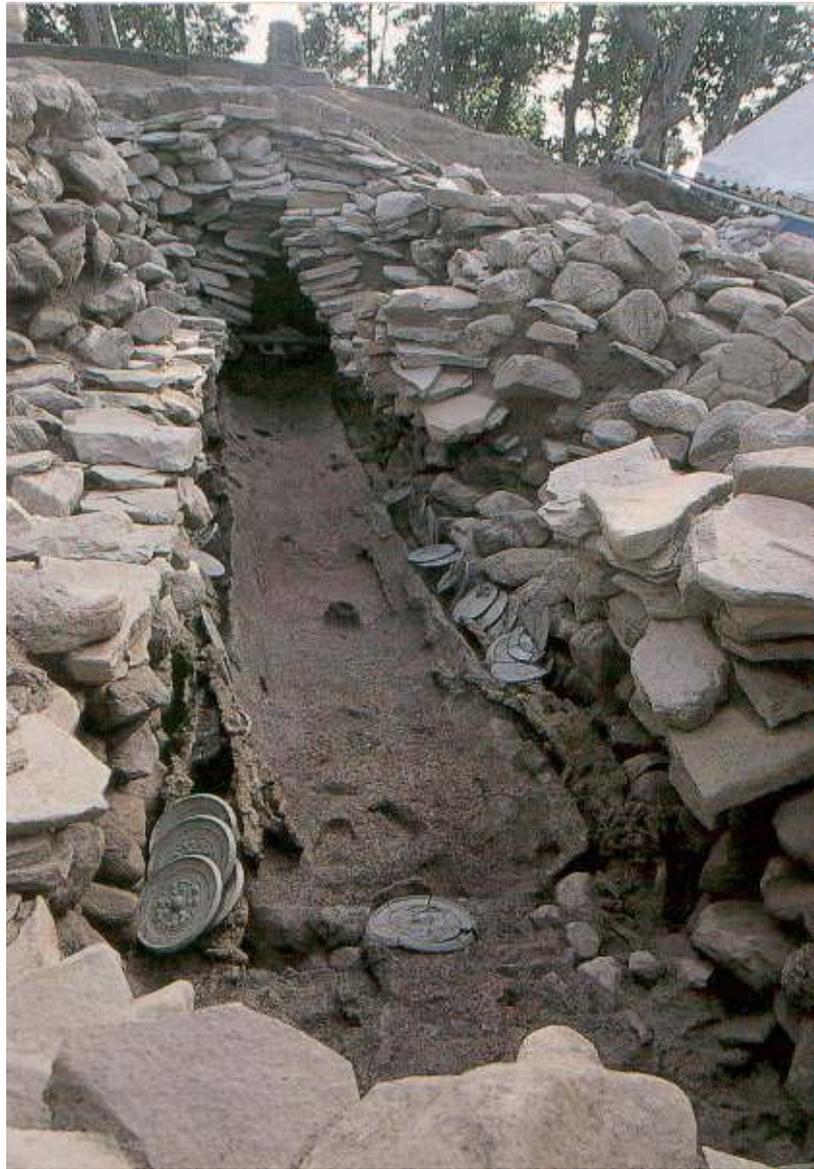
「国土地理院発行2万5千分1地形図(桜井)を使用」



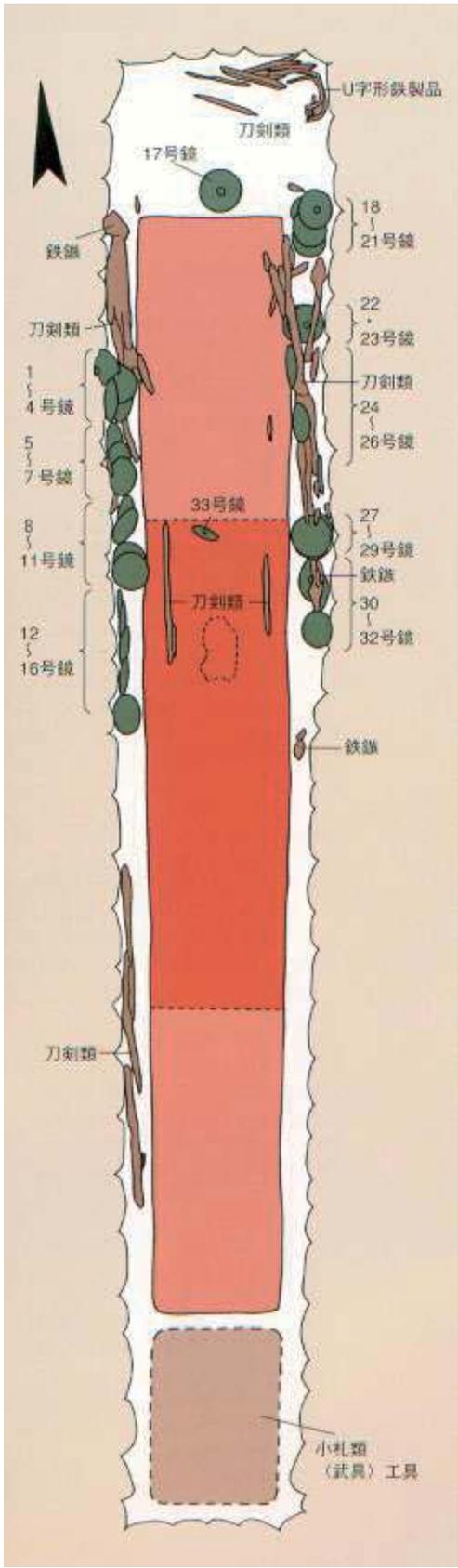
墳丘全景(1989年 天理市教育委員会撮影)



豎穴式石室全景(森和彦氏撮影)



石室内部(森和彦氏撮影)



遺物出土状況模式図